

## 「暮らしの安全モデル校指定事業」事業実施報告書

モデル校指定校名 : 岐阜県立東濃フロンティア高等学校

1. 事業の実施期間 指定を受けた日から令和2年2月25日

### 2. 学校の概要

学校名	岐阜県立東濃フロンティア高等学校
学級数	通常学級：各学年3学級
児童生徒数	全生徒数：219人（平成31年3月4日現在）
URL	<a href="http://www.school.gifu-net.ed.jp//tonofront-hs/">http://www.school.gifu-net.ed.jp//tonofront-hs/</a>

### 3. 調査研究のテーマ

#### (1) 調査研究のテーマ

情報社会の中で主体的に考え判断し行動できる賢い消費者を育成するための教育  
～消費者トラブルの事例学習を通して正しい消費者意識を醸成する～

#### (2) 調査研究のテーマを設定した背景

ネット社会が急加速度的に発展していく中で、キャッシュレスで買い物するシステムが飛躍的に広がり、居ながらにして商品を選択しすぐに購入できるインターネット販売による物流の変化が起こっているなど、消費者としての私たちの生活はこれまで体験したことがない規模で劇的に変化している。それにより私たちの暮らしは合理的で快適になってきている半面、悪徳商法などのネットトラブルに巻き込まれる危険性も等比級数的に増加している。

こうした現代生活の中で、正しく賢いお金の使い方や貯蓄の仕方を学び、トラブルを自分で回避する能力を身に付けた、主体的で賢明な消費者を育成することは喫緊の課題である。

そこで、様々なインターネットに関するトラブルについて具体的な事例を調査しケーススタディを行ったり消費教育に関する講演を聴いたりして正しい知識を身に付けさせるとともに、iPadを利活用したグループによるアクティブラーニングや消費者教育ゲームを使った授業を展開し、主体的に考え判断し行動できる賢い消費者になるよう導いていきたい。

### 4. 調査研究の内容等

#### (1) 調査研究の内容・実施日程

時期	内容	備考
4月26日	・第1回研究推進会議 (研究内容、年間活動日程、役割分担を決定)	参加者8人
5月24日	・第2回研究推進会議 (研究授業、講演会、研修会出張の詳細を決定)	参加者7人

6月14日	・ 県金融広報委員会出前授業 「人生設計ゲームをしよう」 (岐阜大学教育学部 大藪 千穂 教授)	参加生徒 67名(3年次生)
10月4日	・ 県民生活課消費生活出前講座 「消費者トラブルの実例と対処方法」 (御子柴 慎 弁護士)	参加生徒 220名(全校)
10月4日	・ 国民生活センター主催消費者教育研修会参加 「教員を対象にした消費者教育講座」	参加者1名
10月4日	・ 高校生の消費生活に関するアンケート実施	参加生徒 220名(全校)
10月9日	・ 『おっと！落とし穴』配付	33冊(3年次生)
10月16日	・ 消費啓発ポスターの展示	参加生徒 220名(全校)
10月17日		
11月15日	・ 『おっと！落とし穴』配付	76冊(1年次生)
1月27日	・ 研究授業の実施 「ICTを活用した消費者教育」	参加生徒 76名(1年次生)
2月7日	・ 第3回研究推進会議 (研究の成果と課題および報告書作成について)	参加者5名

## 主な活動内容

### ① 6月14日(金) 「人生設計ゲームをしよう」(CT、3年次67名)

(※以下、「CT」とは「総合的な学習の時間」と「LHR」を合わせた授業をさす)

大藪千穂教授(岐阜大学教育学部家政教育講座)による「人生設計をしよう！」と題した出前授業を実施した。授業前半では大藪教授による人生における費用とリスクについて講義を受け、後半は大藪教授らが開発した人生設計について体験的に学べるアプリ「人生設計ゲーム」に取り組んだ。

生徒はスマートフォンを用いることで、効率的かつ正確に人生設計ゲームを進めることができた様子だった。何度もゲームにチャレンジし、どのように結果が変わったのか分析する生徒がいたことから分かるように、生徒の授業に取り組む姿勢も普段より良かった点が印象的だった。

#### 【生徒の感想】

- ・ ひたすらお金を貯めることが大切なのではなく、収入と支出のバランスを考えてお金を使っていくことが重要だと分かった。
- ・ 一生で使う金額が予想より多かった。親が今、これだけお金を使っていると思うと、自分が親になった時のために預金をしておこうと思った。



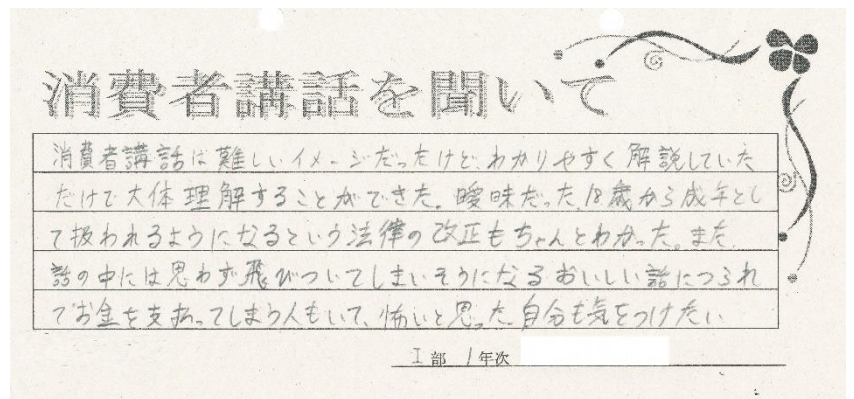
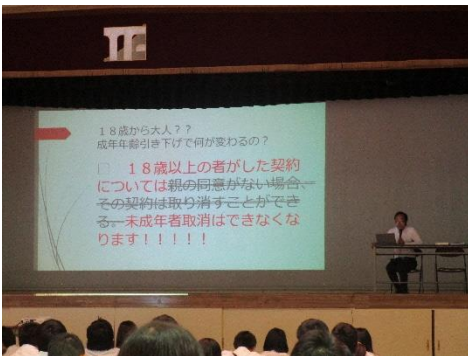
スマートフォンを利用して、「人生設計ゲーム」にチャレンジ。アプリ上で同じグループのメンバーにコメントもしました。

② 10月4日（金） 「消費者トラブルの実例と対処法」（CT、全校生徒220名）

御子柴慎弁護士を招き、「消費者トラブルの実例と対処法」について出前講座を実施した。講演では消費者の権利と責任について理解したのち、「ワンクリック詐欺」「キャッチセールス」「マルチ商法」など身近な消費生活に潜む危険から、万が一消費者トラブルにあった場合の「クーリング・オフ」「未成年取消権の行使」「困った時の188」といった具体的な対処法について学習することができた。

講演の最初と最後には、消費者が受け身であってはならず、「不公正な事業者と取引しない」ことや、「環境・人・地域などにやさしい商品を選択する」といった意識のもとに、消費者が積極的に消費行動を変えていくことで「消費者市民社会」が実現することが強調された。「賢い消費者」として権利を行使するだけでなく、責任を果たしていくための方法や考え方について多くのヒントが得られた講演会になった。

また、生徒の感想の中でひと際多かったのが、2年後にせまった民法改正（成年年齢18歳への引き下げ）に伴って、契約に関する「未成年取消権」が行使できなくなるということについて、多くの生徒が自分自身の事として講話を聞くことができた結果であり、意義深い講話になったといえる。



【生徒の感想】

- ・今まで未成年ということで親などに保護されてきたが、今後は自分1人で責任を負わなければならない事と、そのために必要な知識や方法を知ることが出来て良かったです。
- ・自分が騙されたり、生活に不安があったりした時は、今日教えてもらった「188」に相談をして、これからの生活を安心して過ごせるようにしたいと思います。

③ 10月16日（水）・17日（木） 文化祭展示（制作：1・3年次143名）

文化祭では、家庭科と公民科の授業を受講する生徒が、消費生活についての啓発ポスターや学習の成果をそれぞれ展示、発表した。消費生活についてこれまで学んだことを絵やグラフにまとめて分かりやすく提示し、全校生徒や保護者に向けての啓発活動を行った。

3年次の現代社会、政治・経済の受講者が、『おっと！落とし穴』を活用し、1・2年次生向けに消費者啓発ポスターをつくっている様子。



現代社会、政治・経済の受講者は『おっと！落とし穴』（岐阜県消費者教育副教材）を活用して、契約に関するクイズを作成したり、本校生徒の消費生活の実態についてのアンケート結果の分析を行ったりして、私たちの消費生活への理解と関心が深まるような作品を展示した。

家庭総合受講者は、私たちの消費生活と地球環境との深い関係に目を向けさせるために、オリジナルの川柳をつくり模造紙にまとめた。絵やデザインにも工夫を凝らし、自らの消費が社会に影響を与えることを自覚し、持続可能な社会の実現に積極的に関与すること（＝消費者市民社会の実現）の重要性を訴えた作品が出来上がった。



〈文化祭当日に展示された作品〉



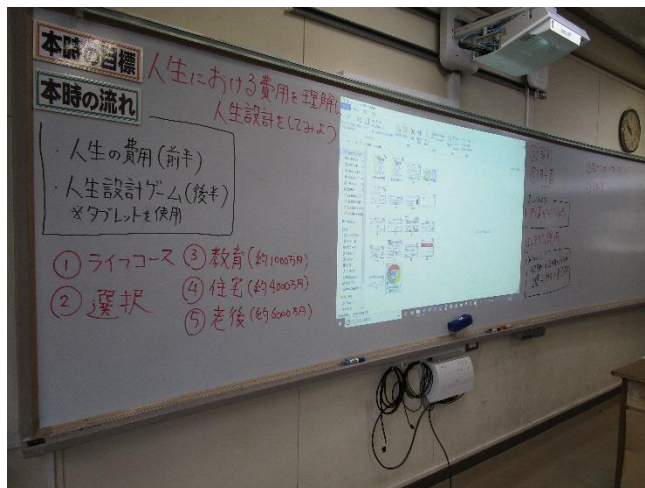
④ 1月27日（月） 消費者教育研究授業（学校設定科目「F社会」、1年次76名）

今年度から導入されたタブレット端末を活用し、1年次生を対象とした消費者教育の公開授業を実施した。

授業を実施するに当たっては、岐阜大学の大藪千穂教授に協力を頂き、ICTを活用した消費者教育について事前に打ち合わせを行った。その中で、「人生設計ゲーム」のアプリを活用することについて協力を頂くことが出来たので、それを活用した授業を構想することとした。その他にも、大藪教授には様々な資料を提供頂き、効果的な消費者教育について指導・助言を受けることができた。

授業当日は20名を超える参観者が来校した（当日の指導案と授業プリントについては【別紙】を添付した）。1年次生ということもあり、老後までの長い人生を見通して考えることは困難ではないかという心配もあったが、どの生徒も積極的に人生設計ゲームにチャレンジすることが出来ていた。6月の大藪教授による出前授業と同様、ゲーム形式であること、さらにはタブレットという大きな画面でタップしながら操作する活動であったことで、生徒の授業に取り組む意欲を高めることにつながったと考えられる。

また、タブレット端末をあえて「2人で1台」として、ペアで交互にゲームをするようにした。これによって、「20代で家を買うのは大変ではないか」「子どものためにも家は必要だ」「保険に入っていて良かったね」など、住居や結婚といった人それぞれ異なるライフコースについて意見交換をしながらゲームをすすめることが出来た。ICTを活用した消費に関する知識の教授にとどまることなく、協同学習の要素も取り入れられたことで、より充実した消費者教育が実施することができた。



【生徒の感想】

- ・人生設計ゲームを通じて、人生には様々なリスクや出費があり、計画的に生きていかないと老後が心配だなと感じた。
- ・お金が多いことだけが人生をよりよくするものではなく、その他の事にも充実した人生こそが、素晴らしい人生を築き上げることだと思います。



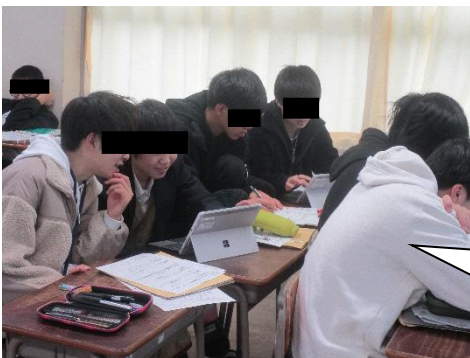
タブレットを「2人1台」としたことで、ICTを活用した消費者教育に、協同学習の要素を取り入れることにつながった。

## (2) 調査研究の成果と課題

1年間の指定事業の総括として第3回研究推進会議が開催された。この会議で出された「成果」と「課題」は、以下の通りである。

### 【成果】

- ・ 普段の授業と比較して、ICTを活用した授業の場合、生徒の学習意欲を高め、理解を容易にする効果を感じられた。
- ・ 消費者教育について、ICTの活用、展示物の製作、講演会など、様々な切り口で生徒に学習機会を提供できたことが良かった。
- ・ 様々な活動における生徒の感想から分かるように、消費者トラブルへの対処法など、こちらが身につけてほしい知識や考え方について、しっかりと生徒が理解している様子が見受けられた。
- ・ 消費者教育に関する教材や、関係する諸機関などについて教員が理解することが出来た。今後も総合学習などで出前授業を実施することがあると思うが、その際のノウハウを共有することが出来た。
- ・ 「地歴・公民科」と「家庭科」という教科の連携を深める機会になった。お互いの授業内容について改めて知ることが出来たので、より効果的なカリキュラムを考えるきっかけになった。



文化祭終了後も、一部の消費者啓発ポスターを校内に掲示。

ICTの活用は生徒の学習意欲を高める。



### 【今後の課題】

- ・ 「ビジネス基礎」などの消費者教育に関する学習項目を有する商業科との連携を深めれば、より体系的なカリキュラムのもとで充実した消費者教育を行っていけないではないか。
- ・ 消費者トラブルに関する講演について、「講演会」形式も良かったが、「寸劇」などを取り入れたものもあると聞いている。集中力を保つことが難しい生徒が多いという本校の実態を考えると、今後は寸劇など観て楽しみながら理解できる形式の講座を実施した方が良い。
- ・ 全校生徒を対象としたアンケートの結果から、本校はアルバイトをしている生徒が多く、消費について生徒個人の裁量が大きい傾向があることが判明した(右図、および下段グラフを参照)。こうした生徒の実態を考えると、消費者教育を単年度で終わらせるのではなく、次年度以降も継続して行っていくことが重要であると考えられる。

### 消費生活に関する全校アンケート

(※当てはまるものに **マル** を打ってください)

Q1 スマホやパソコンを使って、ネットショッピングをしたことがありますか？

ある      ない

Q2 【「ある」と答えた人】何というサイト(アマゾン、楽天など)でショッピングすることが多いですか？

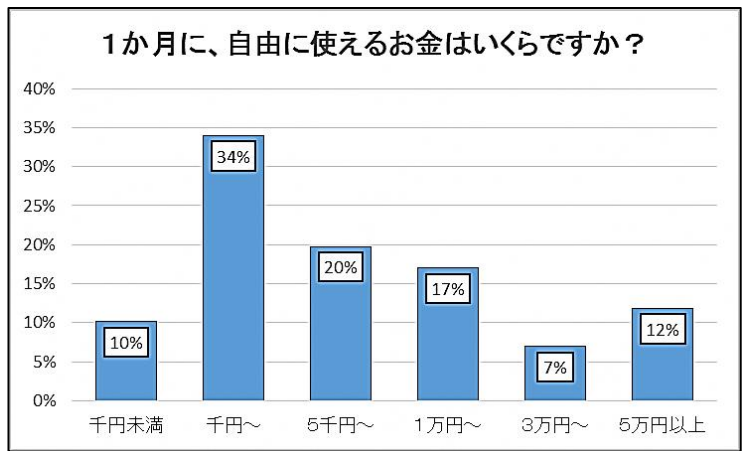
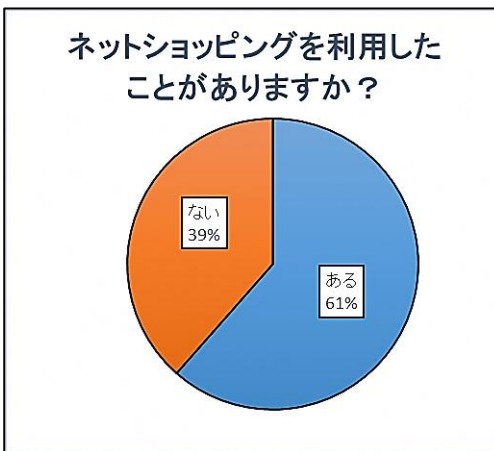
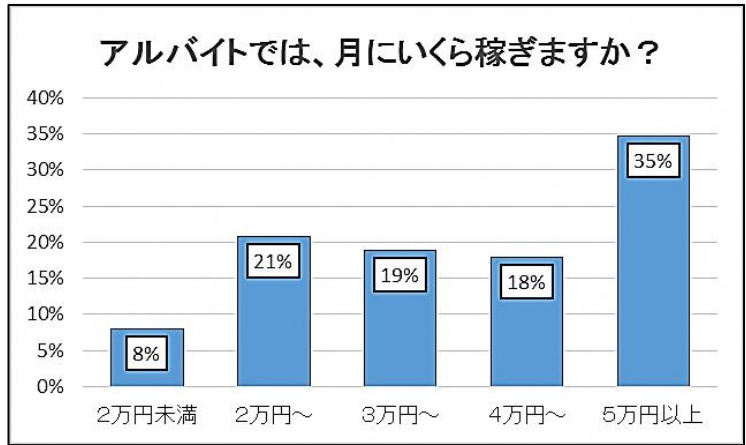
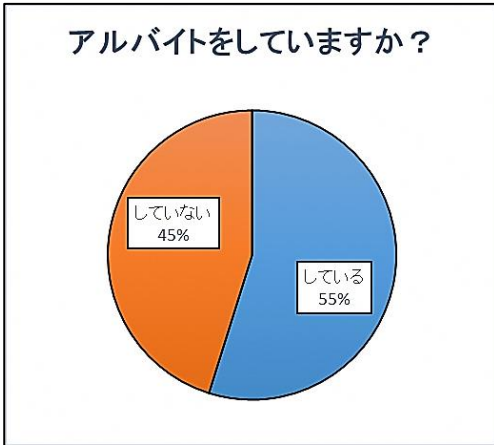
記述(特に決まったサイトが無ければ「なし」で良いです)

Q3 「買い過ぎた!」「なんでこれ買ったんだろう…」など、買い物で後悔をしたことがありますか？

よくある      たまにある      ほとんどない



〈消費生活に関する全校アンケートの結果〉（一部抜粋）



【別紙】指導案・授業プリント

日時	令和2年1月27日(月)第2限		指導 クラス	I部1年次(20名)		指導者	
教科(科目)	F社会(学校設定科目)	教科書	なし	副教材	『高校社会へのステップ』(東京書籍)		
単元名	公民分野 わたしたちの暮らしと経済						
本時の主題	わたしたちの消費生活(3・4時間目/全4時間)						
本時の目標	生涯を見通した計画の重要性を理解し、消費生活についての関心を高める【関心・意欲・態度】						
評価規準	関心・意欲・態度			思考・判断・表現			
	生涯を見通した生活の管理や計画の重要性を理解し、活動の振り返りの記入や他者への助言など、積極的にペア活動に参加している。また、人生設計についての気づきや、新たな疑問をもち、具体的に行動しようとする態度がみられる。			人生における必要な費用や想定されるリスクなどを理解したうえで、自らの人生設計において重要な点について自分の考えを表現することが出来る。			
指導の内容・ねらい		学習活動			指導上の留意点・観点別評価		
<b>【導入】(15分)</b> ○様々なライフコースがあり、今後それらを自分で選択していかなければならないことを説明する		<b>Q1</b> : 人生における大きな「選択」の場面は何? <b>Q2</b> : 30歳になった時の自分のくらしは? →結婚・住宅などについて、ペアで順番にタブレット上でフォームズを入力し、クラス全体で意見を共有する。			○アプリを利用した人生設計ゲームを行うことを予告する ○タブレット2人1組で使用 ○マイクロソフトフォームズを使いアンケートを集計		
<b>本時の目標：人生における費用とリスクを理解し、人生設計をしてみよう</b>							
<b>【展開①】(30分)</b> ○人生で必要なお金について興味関心を高める ○家計・貯蓄の概念を理解させ、消費と貯蓄のバランスに目を向けさせる ○高校生の収入で置き換えて考えることで費用の大きさを実感しやすくする ○リスクの存在と保険のしくみについて理解する		<b>Q3</b> : 人生の「三大支出」は何だろう? →教育費・老後費などまとめて準備しておかなければならない支出があることを確認 <b>Q4</b> : 収入・支出の例の問題点は何だろう? →将来の支出に備えて、計画的にお金を蓄えていく必要があることを理解する <b>Q5</b> : 生涯に必要なお金はいくらだろう? →生涯の収支を示したグラフから、特に老後に備えて貯蓄が必要であることを読み取る <b>Q6</b> : 人生にはどんなリスクがあるだろう? →スマホの例について、保険に入るか入らないかを考える			○時間次第でその他の費用についてもクイズを行う ○表やグラフについては、同じ画像を白板投影し、生徒が学習に取り組みやすいよう工夫する ○生命保険等は任意であることを強調し、選択が必要なことに注意を向ける		
<b>【展開②】(35分)</b> ○別紙「ワークシート」と「参考資料」を配布するし、ゲームの説明をする ○ゲームを通じて人生設計についての関心を高める		○人生設計ゲームをやってみる(1人ずつ) ・どんな人生にしたいか記入する ・実際にゲームに取り組み、結果と自己評価を①に記入する ・ペアの結果を②に記入する			○2人1組でペア活動 ○指導者は机間指導により分からない語句等を随時説明する ○消費生活への関心を深め、自己評価やペア活動を積極的に取り組んでいる【関】		
<b>【展開③】(10分)</b> ○「選択」は人それぞれで自分らしく生きることが大切なことを理解する		<b>Q7</b> : なぜ家を購入する/しない選択をしたか? →ペアで③に理由を記入する →何名か指名して白板に理由を板書させ、意見を共有する			○このゲームでは「残高」をもとに結果が出るため、お金以外の点も含めて考える必要があることを強調する		
<b>【まとめ】(5分)</b> ○振り返りを通じて、本時の学習についての理解を深める		○人生におけるリスクや費用について新しく分かったこと、人生設計をしていく上で大切だと感じたこと等について、プリントに記入する			○リスクや費用等を踏まえたうえで、人生設計において重要な点について意見を表現することが出来る【思】		

※消費者教育および「人生設計ゲーム」のアプリ等については、大藪千穂教授(岐阜大学)よりご指導、ご協力を頂きました。



## 本時の目標

人生における費用とリスクを理解し、人生設計をしてみよう

### （1）人生の計画はしている？

◇30歳になった時の自分

高校卒業後の進路は？

就職した / 進学した

どこにいる？

岐阜 / 県外へ

住まいは？

マイホーム / マンション / 実家

結婚は？

している / していない

子どもは？

いる( 人) / いない

仕事は？

している / 主婦・主夫

→人生には様々な①ライフコースがあり、自分で②選択していかなければならない

### （2）人生に必要なお金について知ろう

◇人生の3大支出

③教育費用

【約1000万円】



④住宅費用

【約4000万円】



⑤老後費用

【約6000万円】



◇収入と支出

・⑥家計：収入と支出の活動をとおして生活を維持する経済活動

→  $\frac{\text{しゅうにゆう}}{\text{収入 (所得)}}$  から、 $\frac{\text{ししゅつ}}{\text{支出}}$  を引いた残高を、⑦貯蓄 という

Aさん（25歳・独身）の1か月の収入と支出

#### 収入例

基本給	180,000 円
残業手当	20,000 円
<b>総支給額</b>	<b>200,000 円</b>
医療保険	12,000 円
年金保険	19,000 円
雇用保険	1,000 円
所得税	5,000 円
住民税	13,000 円
<b>税・社会保険総額</b>	<b>50,000 円</b>
<b>手取り給与</b>	<b>150,000 円</b>

#### 支出例

食料	32,000 円
住居	48,000 円
光熱・水道	9,000 円
家具・家事用品	2,000 円
衣類	4,500 円
保健医療	4,000 円
交通・通信	18,000 円
教育	0 円
娯楽	20,000 円
その他支出	12,500 円
<b>支出合計</b>	<b>150,000 円</b>



考えてみよう

Aさんの収入と支出には何か問題点がありますか？

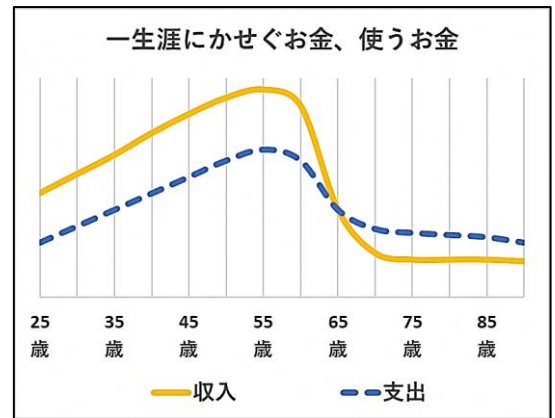
### ◇一生涯にかかる費用は？

・一生涯にかかる費用は⑧約2億円

※退職後（65歳～）は、

収入より支出が上回るので、準備が必要

どれくらいの金額だろう？



→長い人生を見通して、計画的に「消費」と「貯蓄」を配分していく必要がある

## (3) 人生におけるリスク

### ◇リスクとは？

・リスクとは：⑨起きてほしくないことで、起きるとお金がかかること

考えてみよう：人生にはどんな「リスク」があるだろう？

今日の帰り道、**交通事故にあう** かも…。

40歳になったら突然、**重い病気にかかる、失業する** かも…。

せっかく家を買ったのに、**自然災害や火事** で家がなくなるかも…。



### ◇万一の時のための保障

⑩**保険**：みんなから少しずつお金（保険料）を出し合い、  
万一の時に必要な金額を受け取れる

スマホの保険に入る？入らない？

**入る**：毎月、保険料1000円（→故障しても、タダで修理）

**入らない**：毎月支払うお金はなし（→故障したら、修理代5万円）

・大きく2つの保障がある

**私的保障**（入るか入らないか自分で選ぶ）

生命保険（病気や老後）

損害保険（火事や地震）など

**社会保障制度**（国など、強制）

全ての国民が必ず保険料をおさめる

社会保障制度の例	
医療保険	病気やケガをした時、 安く治療を受けられる
年金保険	老後（65歳～）の生活費 （年金）が給付される
雇用保険	失業した時に、失業手当 をもらえる

